フラッグフットボールがオリンピック正式種目に！



2028 年に開催されるロサンゼルスオリンピックで、「フラッグフットボール」が正式種目として採用されることが決定しました。これにより、さらに多くの人々に親しまれ、競技人口の拡大や国際大会での盛り上がりが期待されています。

フラッグフットボールはボールを持って走ることで得点できるため、全員に得点のチャンスがあり、誰もが活躍できる可能性のあるスポーツ教材です。小・中学校の体育授業のみならず、クラブ活動や部活動での導入も進んでおり、注目が高まっています！

サポーティングパートナー

フラッグフットボールの小学校への教材の寄付活動は
サポーティングパートナーの皆様のご支援によって実現しています。

株式会社PR TIMES 様

エデュシップ株式会社 様

南箕輪村 様

日本体育大学 様

〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1 日本体育大学内
TEL : 050-5578-6423
E-Mail : info@japanflag.org

フラッグフットボール

新学習指導要領から新しい体育が始まる

誰でもできる!

フラッグフットボール スタートブック

監修・著作 公益財団法人日本フラッグフットボール協会
制作・協力 EDUSHIP



小学校体育の悩み

運動が得意な子だけが
活躍してしまい、
運動の苦手な子が
活躍できない

そもそも自分が
運動が苦手なので、
指導に自信がない



クラスみんなが
一体となる体育が
できていない…

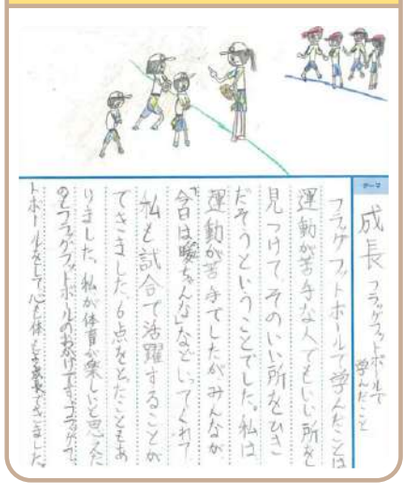
これを解決できる新しいゲーム
それが…

フラッグフットボールです！

子どもたち・先生の声

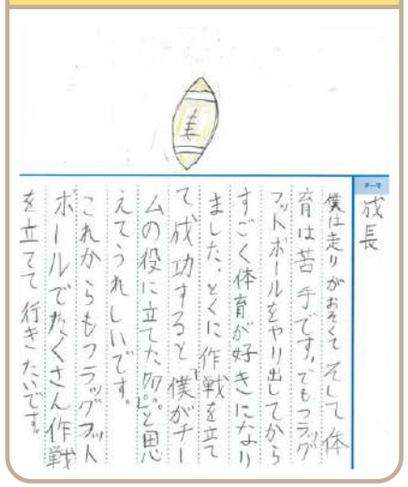
運動が苦手だけど、体育が楽しいと思えた！

兵庫県姫路市　4 年生



僕がチームの役に立てた！

大阪府高槻市　6 年生



フラッグフットボールは学級経営にも繋がる

徳島県 K 小学校　4 年生担任

初めてフラッグフットボールをやってみて感じたことは、学級経営にも影響があるということです。作戦を立ててチームで協力してゲームを行うことを通して子どもたち同士が今まで以上につながり合えるようになった気がします。休み時間には、長縄でいろいろな男女が混じり合って遊ぶ姿がよく見られるようになり、以前と比べて仲良く遊ぶようになりました。

子どもたち授業の感想では、「楽しかった」「仲間とより仲良くなれた」「協力が大事」などと言う子が多く、仲間を意識する子が多く見られました。みんながよく団結して助け合ういいクラスになったと感じました。

みんなの得意なことが分かった！仲間とのきずなが深まった！

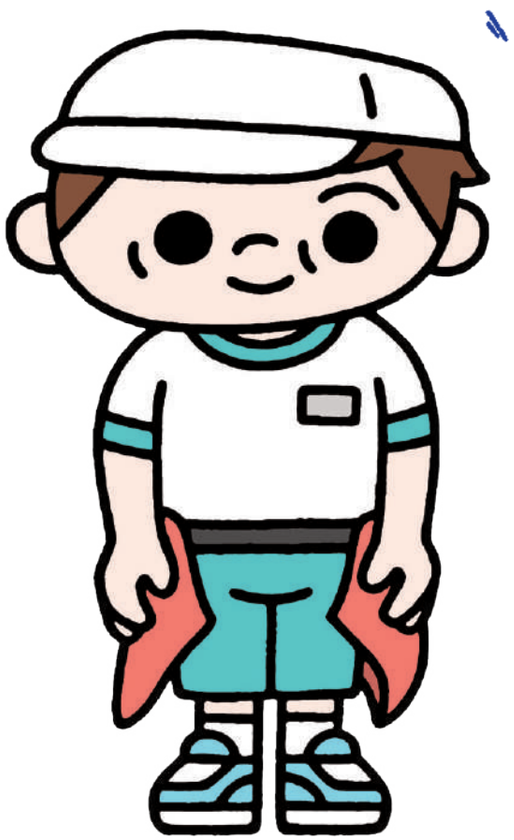
佐賀県神埼市　5 年生



「フラッグフットボール」を知っていますか？

フラッグフットボールは…

運動の苦手な子でも活躍できる新しい小学校体育のゲームです！



一般的な

「フラッグフットボール」のイメージ

- そもそも聞いたことがない。
- 名前は聞いたことはあるけど、よく分からない。
- アメフトみたいで、危なそう。
- ルールが難しそう。
- タグラグビーとの違いが分からない。



皆さんのイメージとは全然違います！

まずは動画をチェック

フラッグフットボール　小学校　検索

またはQRコードを読み込んでみましょう。

1

「鬼あそび」の続きで楽しめるやさしいボール運動

フラッグフットボールはボールを持って走ることが出来る（ドリブルなどが無い）為、鬼遊びの延長で誰でも容易に楽しむことが出来ます。



2

作戦によってクラスの一体感が生まれる！

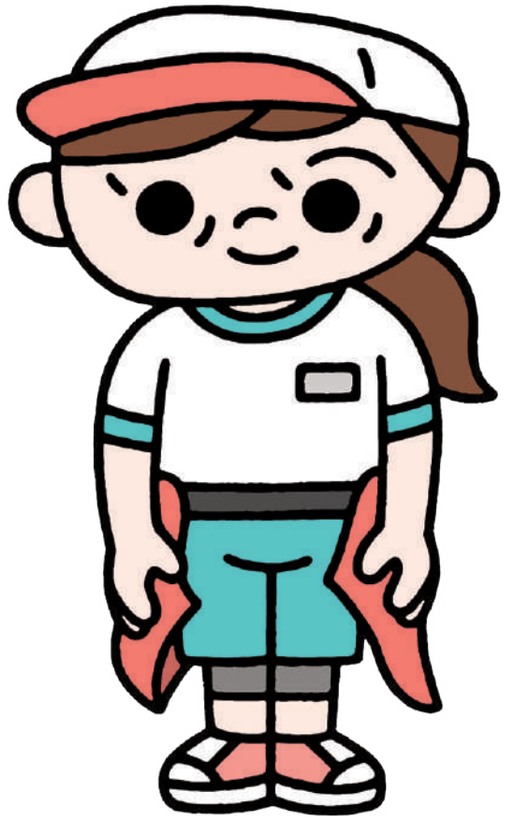
最大の特徴は、必ずみんなで話し合い「作戦」と「それぞれの役割」を決めること。各チームが自然に話し合い、クラスに一体感が生まれます！



3

運動の苦手な子が劇的に変わる

フラッグフットボールはそれぞれに必ず役割が生まれるので、運動の苦手な子にも必ず活躍の場が待っています。今日は全く活躍できなかったという日はありません！



CONTENTS

本紙の使い方

まずは動画を見てみよう

本紙はフラッグフットボールを分かりやすく解説した入門書ですが、はじめに動画を見ると、実際の動きのイメージやゲームの全体像を更に理解することができます。



小学校体育の悩み …… 002

フラッグフットボールを知っていますか …… 004

第1章 そもそも体育の目的って何だろう?

学習指導要領を読み解こう! …… 008

運動が苦手でも、良い体育の授業は出来る! …… 010

第2章 運動の苦手な子にも活躍を!

新しい体育が始まる! …… 012

フラッグフットボールとは!? …… 013

「作戦づくり」で運動が苦手な子が変わる!! …… 014









第3章 すぐにできる授業の方法を知りたい!

さぁフラッグフットボールを始めよう! …… 016

授業の進め方 ～まずは簡単なゲームから～ …… 018

しっぽ取りゲーム …… 020

3対2フラッグフットボール(パスなし) …… 022

3対2フラッグフットボール(パスあり) …… 026

第4章 すぐに使える便利なツールが勢ぞろい!

オリジナル作戦を考えよう …… 030

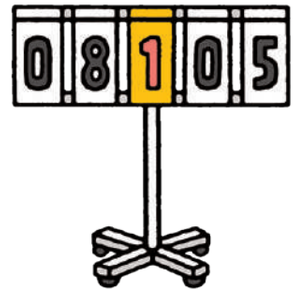
作戦コンクールに応募しよう …… 031

ダウンロード素材・動画集 …… 032

学習カードはこう書く! …… 033

Q&A …… 034

おわりに …… 035



— 第１章 —

そもそも体育の目的って何だろう?



新学習指導要領の体育を読み解こう!

▶学習指導要領において、体育の目標はこう書かれています。

教科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、**生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現する**ための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
(2) 運動や健康について自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
(3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。



(参考：小学校学習指導要領 解説 2017)

改訂のポイント

「運動が苦手な児童への配慮」

学習指導要領では改訂の具体的事項として、「全ての児童が、楽しく、安心して運動に取り組むことができるよう」「運動の苦手な児童や運動に意欲的でない児童への指導等の在り方について配慮する」ことが明記されました。

運動を好きになることから、全ては始まる

豊かなスポーツライフの実現のためには、「無理やり」身に付けさせても、長期的にはあまり意味がありません。子どもたちが運動を好きになった結果として、動きや技能が身につくことが理想的です。



身に付けること

様々な運動の基本的な動き・知識を身に付けよう!

身に付けること 1

- 各種の運動やスポーツが有する特性や魅力に応じた動きや技能を段階的に習得できるようにする。
- 運動やスポーツの特性に応じた行い方や知識、またはスポーツに関する科学的知識や文化的意義を理解する。
- 知識とは、単に事実的な知識だけではなく、それらが相互に関連付けられ、更に社会の中で生きて働く知識となるものを含む。

スポーツの多様な価値と関わり方を知ろう!

身に付けること 2

- 運動やスポーツが楽しさや喜びと共に体力向上につながっていることに着目する。
- 運動を「すること」だけでなく、「みること」「支えること」「知ること」など、多様な関わり方を知る。

運動を通じて、「課題解決力」を身に付けよう!

身に付けること 3

- 体育においても「主体的・対話的で深い学び」を目指して取り組むこと。
- 習得した知識及び技能を活用し、解決方法を考えるとともに、様々な解決方法の中から、より良い解決に向けて判断すること。

主体的・対話的で深い学びを実現するためには、各自が考えたことを他者に伝える力が重要です。体育においては「言葉で伝える」だけではなく、やり方を「教えてあげること」や動きの中でのアイコンタクトなど、体育特有の「伝え方」があります。

学習指導要領が目指すこと

豊かなスポーツライフの実現へ!!



豊かなスポーツライフを送るということは

運動の価値を知り、自己に適した運動との関わり方で、末長く運動とのより良い関わりを続けていくことを通して、心身の健康の保持・増進のみならず、多様なコミュニティの創造や自己肯定感の向上、自己実現などにも繋がっていくこと、

と表現することができる

そもそも体育の目的って何だろう?



運動が苦手でも「良い体育の授業」は出来る!

小学校体育の目的は、スポーツ選手を育成することではありません。全てのこどもの生涯にわたる「豊かなスポーツライフ」を実現するための資質･能力を育むことです。「運動が苦手だから、指導も苦手」と思っている先生が多いですが、**「運動の得意･不得意」と「良い体育の授業が出来ること」は特に関係がありません**。指導のポイントを理解し、それを実際の授業でどう行うかが分かれば、誰でも良い授業ができるのです。

体育の指導 3つのポイント

大切なのは、技能の高さではなく、授業のコーディネート力!



子どもたちの「やってみたい!」を引き出そう

まずは子どもたちが「やってみたい！」と思えるように、初回の授業から簡単な試合を行うなど、**運動の魅力に出会う機会を多く**つくりましょう。授業前に、動画を見せることなども有効です。

どんな子にも「やさしい」状況でスタートしよう

誰でも成功体験が得られる易しい内容で学習を始め、**これなら私もできそう！**という思いを持てるようにするにすることが大切です。運動の苦手な子の恐怖心を取り除いてあげましょう。



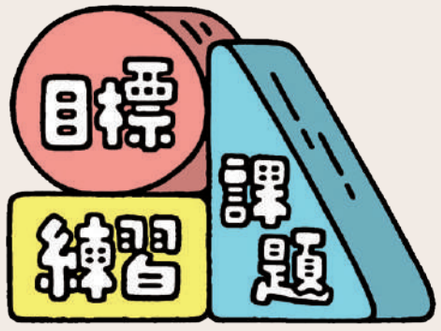
身に付けるべきことは、多くない。必要なのは、運動を楽しむための技能

体育で求められる技能はそこまで多くありません。「転がってきたボールの正面に入れる」、「落下地点に入れる」など小学校ではかなり限られています。学習指導要領に記載されている目標は、スポーツ選手になる為の技能ではなくて、**どの子も楽しめる為に最低限必要な技能**なのです。



先生が全てを教えられる必要はありません

子どもたち自身で考えたり、子ども同士で話し合って課題を解決することに、体育の高い教育的価値があります。



子どもの解決したい課題を見付け、具体的な活動までつなげよう

先生が上手な動作の見本を見せる必要はありません。それよりも子どもたちの「〜したい」「〜が出来るようになりたい」という思いに対して、何をするのか具体的な活動まで考えられるよう課題を設定したり、ヒントを与えることが大切です。

先生一人で指導できないことは子ども同士の関わりで高めよう

体育の授業で、先生が全員の子どもを一人一人指導することには限界があります。得意な子が苦手な子に教えてあげることや、チームスポーツであれば、それぞれの特性に合わせてチームづくりや作戦を考えることで、より多くの子どもが成長できたり、達成感を味わうことができます。またその過程でクラスの一体感も高まっていきます。



— 第２章 —

［ 運動が苦手な子にも活躍の場を! ］



新しい体育が始まる!

「フラッグフットボール」が学習指導要領に登場 正式に中学年の推奨種目になりました

(ク)ボール運動系

低学年については、従前どおり領域名を「ゲーム」とし、内容を「ボールゲーム」及び「鬼遊び」で構成した。

中学生についても、従前どおり領域名を「ゲーム」とし、内容を「ゴール型ゲーム」、「ネット型ゲーム」及び「ベースボール型ゲーム」で構成した。

また、「ゴール型ゲーム」については、味方チームと相手チームが入り交じって得点を取り合うゲーム及び陣地を取り合うゲームを取り合うゲームを取り扱うものとすることを、新たに「内容の取扱い」に示した。

高学年についても、従前どおり領域名を「ボール運動」とし、内容を「ゴール型」、「ネット型」及び「ベースボール型」で構成した。また、ゴール型はバスケットボール及びサッカーを、ネット型はソフトバレーボールを、ベースボール型はソフトボールを主として取り扱うものとするが、これらに替えてハンドボール、タグラグビー、**フラッグフットボールなどア、イ、及びウの型に応じたそのたのボール運動を指導することもできることを、新たに「内容の取扱い」に示した**。なお、学校の実態に応じてベースボール型は取り扱わないことができることを、従前どおり「内容の取扱い」に示した。

（参考:新学習指導要領･体育12Pより）

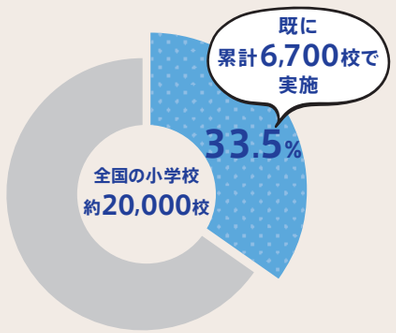
なぜ学習指導要領に掲載された?

フラッグフットボールは、小学校体育に適したゲームとして開発

1 ボールを手で持って走れる
＝かんたんな動きで出来る

2 子どもたちみんなで話し合って作戦を決める
＝課題解決型の授業が自然に出来る

3 自然と全員に役割が生まれる
＝運動の苦手な子も活躍できる

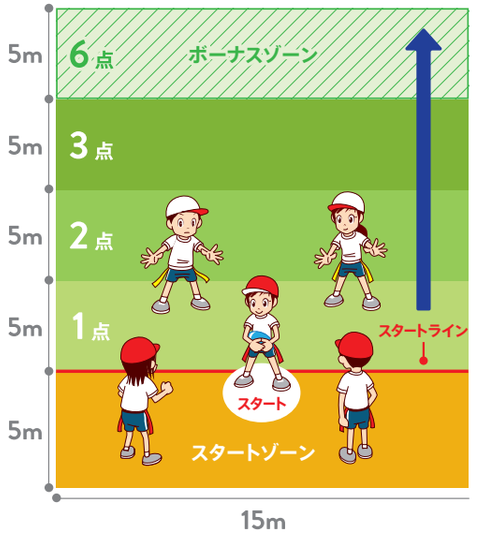


「フラッグフットボール」ってどんなゲーム?

起源はアメリカンフットボール。
本場アメリカでは遊びから競技まで、幅広く親しまれています。

小学校体育で推奨されているルール

攻撃は3人　守備は2人　ボールは1つ



※ 慣れてきたら６点ゾーンを追加しても良い。

1 作戦を決めて、出来るだけ
奥にボールを運ぶ

2 奥に運んだ分だけ**得点が増える**

3 これを**4回繰り返して、攻守交替**

4 合計得点が**多いほうが勝利**

● 守備側は**ボールを持っている人のフラッグを取る**か、
パスを**キャッチorカットすること**で、
相手の1回の攻撃を終了させることができる。

1回1回の攻撃の前にみんながどう動くのか
「作戦」を話し合うことが最大の特徴です!

Q.似ている種目〝タグラグビー〟との違いは?

タグラグビーは、サッカーと同様で、決められた時間の中で動き続け、攻守も自由に入れ替わります。一方、フラッグフットボールは攻撃回数が決められおり、攻撃が終わると攻守が入れ替わります（野球のように攻守がはっきり分かれる）。また１度だけ前にボールを投げることができるのも、フラッグフットボールの特徴です。



— 第 2 章 —



[運動が苦手な子にも活躍の場を!]

フラッグフットボールの流れ
「作戦づくり」で運動の苦手な子が変わる!!

「作戦成功」というゴールを目指し、チームみんなで話し合い、それぞれの役割を実行していきます

1 試合開始



● このチームでどうすれば、勝てるだろう？

2 作戦タイム



● みんなの得意・不得意を話し合って作戦を決める

3 攻撃開始



● 一人一人の役割を実行

4 作戦成功



● 運動の苦手な子も「自分の役割」で大活躍!

体育の課題「運動の二極化」

社会の変化・家庭環境の多様化により、小学校体育において「運動が得意な子」と「苦手な子」の二極化が進んでいます。
小学校で球技を行うと
❶運動の得意な子だけがゲームに関わっている
❷運動の苦手な子がほとんど参加できていない状況になることも多く、子どもたちの学ぶ権利にも関わる課題が生まれています



運動能力以外でも活躍できる場がたくさんある
自分の能力に合った役割で活躍できる

「速く走る」「パスを捕る」だけではなく、「作戦を考える」「相手の攻撃を分析する」など、様々な活躍の場面があります。運動の苦手な子でも、自分の得意な事で役割を見つけて活躍することができます。





話し合いはクラスの関係も変える!

注目すべき点は子どもたちがゲーム感覚で「夢中になって話し合う」という光景です。セットプレーの連続であるフラッグフットボールは 1 プレーごとに話し合いの時間があります。みんなで一喜一憂しながら、話し合い、確認し合い、協力プレーを展開する経験は、授業後のクラスの関係づくりにも影響を与えます。



［すぐにできる授業の方法を知りたい！］

＼ 便利な「用具」でゲームを楽しもう！ ／

さぁ、フラッグフットボールを始めよう!

＼ 必要な用具はこれだけ! ／

MIKASA molten For the real game

人数分のフラッグ

フラッグ 2 枚 + ベルト



「フラッグ」とは腰につける「旗」のことです。腰にマジックテープベルトを巻いて、両腰にすぐに「ピタッ!」と張り付けることができる大変便利な用具です。

フラッグの準備が難しい場合はタグラグビーのタグや、両腰にタオルを挟むことなどでもゲームを楽しむことができます。

ボール

必要数はゲームによる

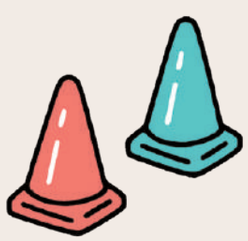


フラッグフットボールのシンボルでもあるボールは子どもたちが渡しやすく、前にも投げやすい楕円形の小型のボールになっています。

ボールの準備が難しい場合はハンドボールの 1 号球をはじめとして学校にある他のボールでもゲームを楽しむことができます。

＼ ゲームで準備する用具 ／

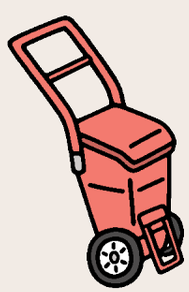
コーンマーカー



得点版



ライン引き





フラッグのつけかた

- 児童全員が**両腰**にフラッグをつけます。
- ベルトは全面マジックテープになっており、腰にまきつけるだけで装着ができます。
- そして両腰に旗側のマジックテープを張り付けて準備完了です!

クラレファスニング「マジックテープ」とパートナーシップ!



フラッグフットボールの「フラッグ」は国内最大シェアを誇るクラレファスニングの面ファスナー「マジックテープ®」によって開発されました。

これまで「5,000 校」を超える小学校でクラレファスニング社との特別開発による「フラッグ」が教育活動の現場で活用されています。

現在も「モルテン社」「ミカサ社」の各社から購入ができますので是非ご活用ください。

「マジックテープ®」はフラッグの着脱に対する耐久性に優れています。また、耐水性、耐熱性、対候性など、屋外でのスポーツでのハードな使用環境にも耐え得る機能性が備わっています。丸洗いも OK です。

耐水性 **耐熱性・難燃性** **耐候性・耐黄変** **CO_2負荷量削減**

kuraray

「マジックテープ®」は株式会社クラレの面ファスナーの登録商標です。

— 第 3 章 —

[すぐにできる授業の方法を知りたい!]



\ まずは簡単なゲームから! /

授業の進め方

授業の流れを知ろう

単元計画例(中学年)

	知る段階			高める段階			
	ゲームの行い方を知り、基本的な動きを身に付ける			有効な作戦を子どもたち自身で考え、実行する。(可能であれば)パスプレーを覚える。			
時間	1	2	3	4	5	6	7	8
0分	準備運動 5分 しっぽ取りゲーム 5分	しっぽ取りゲーム 5分			チームの確認・作戦タイム 5分			
15分	オリエンテーション 15~20分	3対2 フラッグフットボール(パスなし) 15分 チームの確認・作戦タイム 5分			3対2フラッグフットボール(パスあり) 5~10分 試合の振り返り・チーム練習 7分			
30分	3対2 フラッグフットボール(パスなし) 10~15分	3対2 フラッグフットボール(パスなし) 10~15分			3対2 フラッグフットボール(パスあり) 10~15分		3対2 フラッグフットボール(パスあり) 10分 全体のまとめ 5分	
45分	ふりかえり(学習カードの記入)							

準備 ●しっぽ取りゲーム　基礎 ●3対2ランゲーム(パス無し)　応用 ●3対2フラッグフットボール(パスあり)

授業の目標を確認しよう

下記の目標を見ても分かるように、体育の授業で身に付けるべきことは、
実はそこまで多くはありません。子どもにあまり高度な技能を求めず、
発達の段階に踏まえた指導を行いましょう。

ボール運動(ゴール型ゲーム)で身に付けたいこと(中学年)

(小学校学習指導要領・体育97Pより)

知識・技能
- ボールを持ったときにゴールに体を向けること。
- 味方にボールを手渡したり、パスを出したり、シュートをしたり、ゴールにボールを持ち込んだりすること。
- ボール保持者と自分の間に守る者がいない空間に移動すること。

思考力・判断力 表現力など
- 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えること。

学びに向かう力 人間性など
- 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。

※**中学年の場合は、パス無しでも十分に教科の目標を満たすことが出来ます。**また、パスを取り入れる場合も、キャッチが出来なくても「さわることが出来たら 1 点」という条件をつけるなど、できるだけ簡単な動きで実施できることが大切です。

ポイント 1

最初の授業で必ずゲームを行おう!

1 時間目から易しいゲームをすることで、フラッグフットボールの楽しさが分かる機会をつくりましょう。丁寧に 1 回だけ行うだけでも大丈夫です。そうすることで「次もやってみたい」という期待する気持ちを持つことができます。



ポイント 2

チームをつくろう!

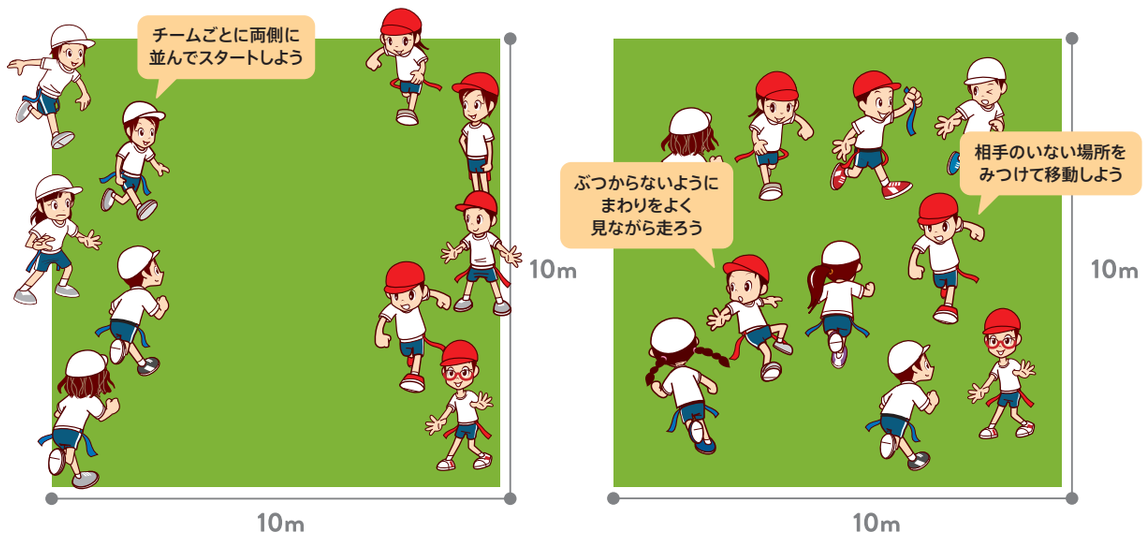
- 1チーム5・6人がおすすめです。
  例:クラスの人数20人の場合→5人×4、30人の場合→5人×6チーム。
- 運動の得意な子が偏らないようにしましょう。
- オリジナルのチーム名を考えましょう。

準備編

\ まずはここからやってみよう /

しっぽとりゲーム

所要時間 5分（準備：1分）
難 易 度 ★
必要な用具 フラッグ、コーン



ゲーム内容

- チーム毎に両端に並んで、ゲーム開始。
- 20秒間を目安にコートの中を動き回り、腰につけたフラッグを取り合います。
- 制限時間内に取れたフラッグの本数をチームで競い合います。
- 1チーム5人で、1つのコートに付き10人がおすすめ。

POINT フラッグフットボールをとる・かわす



とる
- 両手でとりにいく
- 横からとりにいく
- フラッグではなく腰の動きを見てとる



かわす
- 腰をひねる
- 右、左に足を動かす
- 急カーブする

目標

「フラッグを取る」、「取られないように逃げる」動きを学ぶ。

約束事

1. フラッグは必ず両腰につけて、手で押さえない。
2. 友達とぶつからないように、周りをよく見る。

声かけの例

「フラッグをうまく取るコツは何ですか？」
「フラッグを取るとき、きちんと両手を使っていたね！」
「フラッグを取られないコツはありますか？」

アレンジルール

運動の機会を平等に与えるために、
自分のフラッグが 2 本取られてしまった場合でも、
そのままプレーを続けてもよい。

課題

- 目標枚数を決めてみよう。
- ルール（秒数など）は子どもたちで決めてみよう。



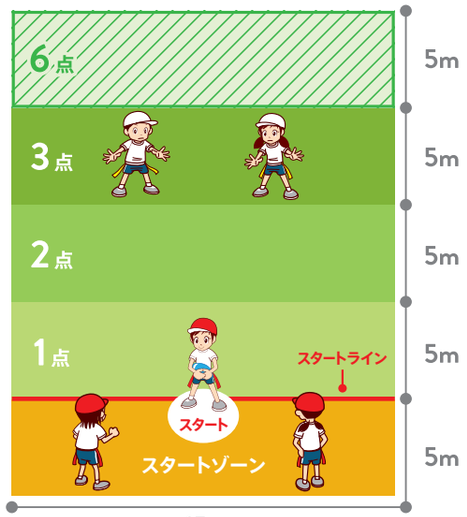
基礎編

＼いよいよ試合形式へ／

3対2フラッグフットボール❶

パスなし

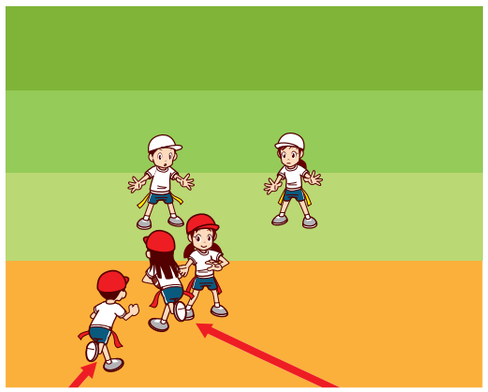
所要時間　15分（準備：3分）
難易度　★★
必要な用具　フラッグ、ボール、コーン（得点版）



ゲーム内容

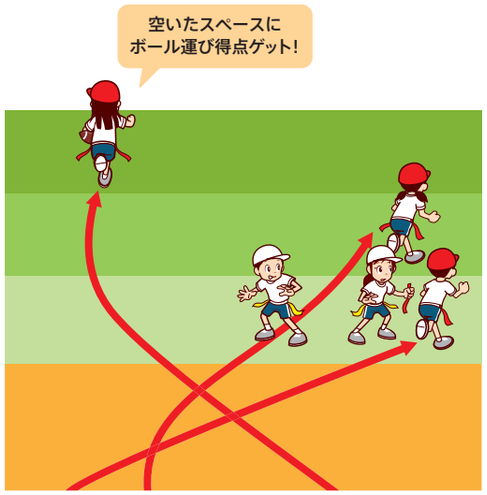
攻撃の前

- 人数は攻撃3人対守備2人
- ボールは1個
- 攻撃の前に必ず作戦会議をおこなう



スタート

- 止まった状態から、ボールを持った人の合図でスタート（スタート時の掛け声「レディ、ゴー」）
- スタートゾーンの中でのみ、ボールを渡すことができる
- ボールを持って運ぶ



得点獲得

- ボールを運んだ分だけ、得点を取ることが出来ます
- 誰がボール持っているか分からなくすることが攻撃のポイントです

＼得点の入り方／

ボールを持った人が、フラッグを取られたり、横の線から出たり、
ボールを落とした地点のゾーンの得点が入ります。

フラッグをとられた



横の線から出た



走っている途中にボールを落とした



1回の攻撃が終わったら、再度作戦会議を行う
4回攻撃したら、攻守交代する



ボールの持ち方

❶ ボールは隠しながら持つ
❶ ボールを腕とおなかでしっかりはさみ相手から見えにくくする

基礎編

\ いよいよ試合形式へ /

3対2フラッグフットボール❷

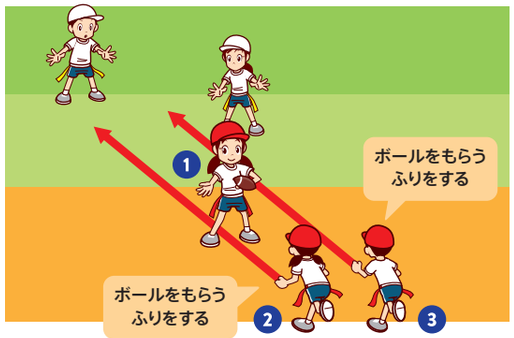
パスなし

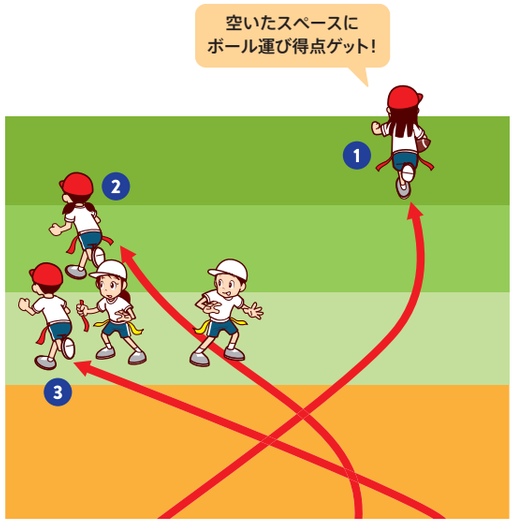
所要時間　15分（準備：3分）
難 易 度　★★
必要な用具　フラッグ、ボール、コーン（得点版）

作戦例

作戦名：だれに渡すかなー作戦

▶ ❷❸がボールをもらうふりをして守備を引き付け、最初からボールを持っていた❶が空いたスペースに走って得点を狙います。

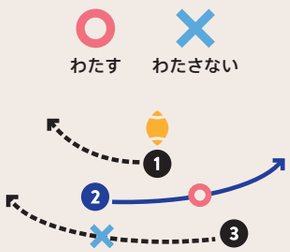




作戦の基本パターン

▶ 誰がボールを持っているのか分からなくするのがポイント！

A 1回わたすパターン



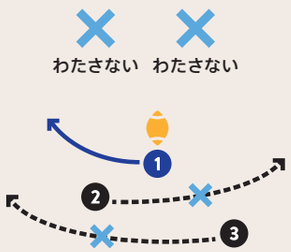
❶ ①が②にボールを手わたす
❷ ②が③にボールをわたすフリ
❸ ②がゴールを目指す

B 2回わたすパターン



❶ ①が②にボールを手わたす
❷ ②が③にボールを手わたす
❸ ③がゴールを目指す

C 両方わたさないパターン



❶ ①が②にボールをわたすフリ
❷ ①が③にボールをわたすフリ
❸ ①がゴールを目指する

目標

- 1 つのボールをみんなで運ぶためには、「作戦」が重要だと知る事。そしてチームで作戦を立てて、一人一人の役割を決めること。
- 「ボールの持ち方」「ボールのわたし方」を工夫すること。

約束事

いつ、どこで、だれが渡す・渡すふりをするかを、
事前に作戦を立てて確認する。

声かけの例

「ハドル（作戦会議）」では一人一人の動きをしっかり確認しよう。」
「作戦を意識して動いてみよう。」
「友達の良い動きはどんどんほめてあげよう。」「失敗しても、新しい作戦に挑戦したことが大切だね。」

授業の組み立て方

続けてゲームをするのではなく、授業の途中でチームごとに作戦を話し合う時間や、ボールの渡し方を練習する時間を設けましょう。

指導のポイント

あまり勝てないチームには、
練習の仕方や作戦の立て方について
助言して回りましょう。



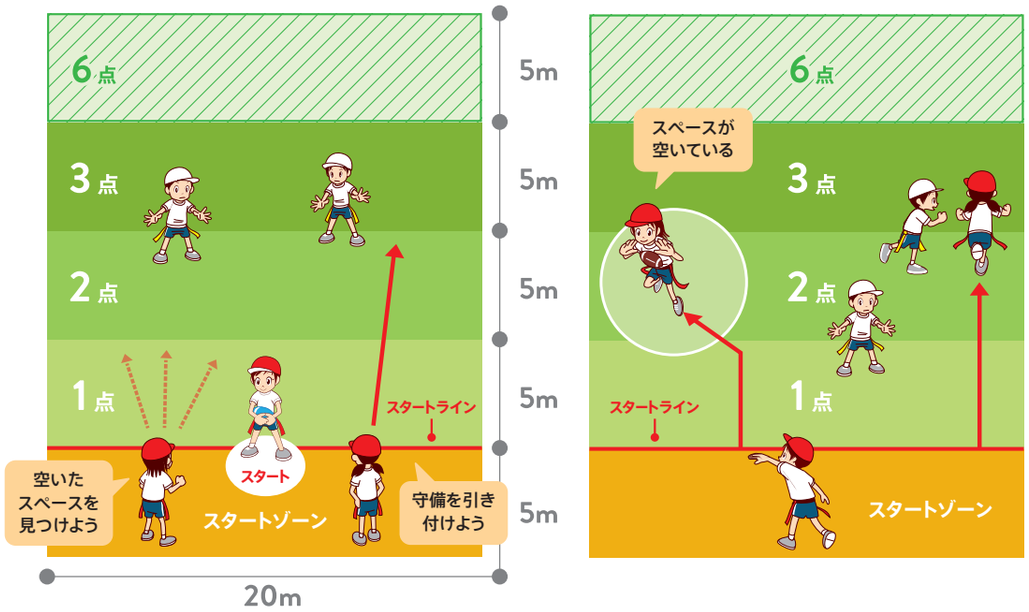
応用編

＼ パスも組み合わせた作戦へ ／

3対2フラッグフットボール❶

パスあり

所要時間 15分（準備：3分）
難 易 度 ★★★
必要な用具 フラッグ、ボール、コーン



ゲーム内容

- スタートゾーンの中からのみ、前へ1回だけパスができる
- パスキャッチをしたら、3点のゾーンを目指し、奥へ走る
- パスを落としてしまったら、その攻撃は0点

※中学年の場合、パスにさわることができたら、
エリアに関わらず「1点」とするのが良いでしょう。
慣れてきたら 6 点のボーナスゾーンを追加しても良いです。

パスが合わさると作戦は無限！

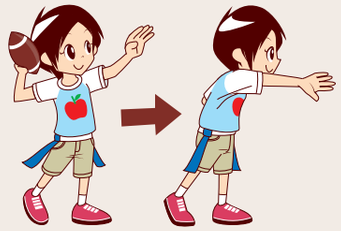
パス無しでボールを運ぶだけの時は、作戦のパターンは限られますが、パスが加わると、作戦のパターンは無限に広がります。**「投げるふりをして、ボールを持って走る」**または**「ボールをわたすふりをして、パスを投げるなど」**より守備を混乱させる作戦を考えることができます。

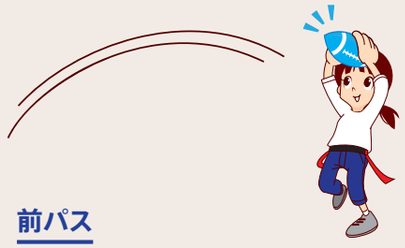


＼ まずはやり方を覚えよう ／

パスを取り入れよう！（パス練習）

学ぶ動き



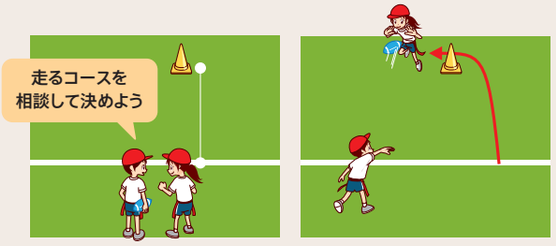


前パス

ボールを捕る人と走るコースとキャッチする位置を決めておき、その位置へパスをしてボールを運ぶ。

練習の内容

- 2人1組で、1人は「ボールを投げる役」、1人は「ボールをキャッチする役」になります。
- 2 人で事前に相談して走るコースを決めます。ボールをパスする人の合図で、ボールをキャッチする人は走り出し、決められた地点（コーン）まで来たら、事前に決めたコースへと方向を変えます。パスをする人はそこへ向けてボールを投げます。



約束事

❶ 走るコースは事前に相談して決めよう。
❷ ぶつからないように、他グループとは十分な距離を取りましょう。



応用編

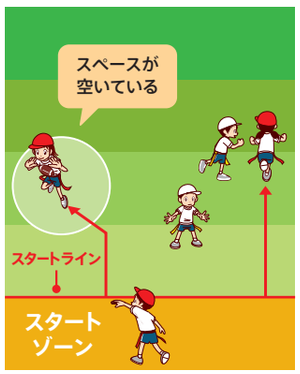
＼ パスも組み合わせた作戦へ ／

3対2フラッグフットボール❷

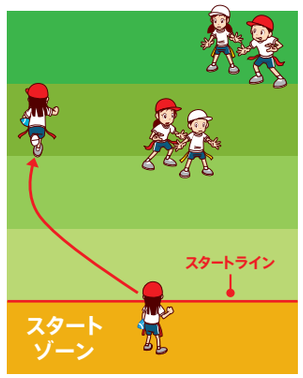
パスあり

所要時間　15分（準備：3分）
難 易 度　★★★
必要な用具　フラッグ、ボール、コーン（得点版）

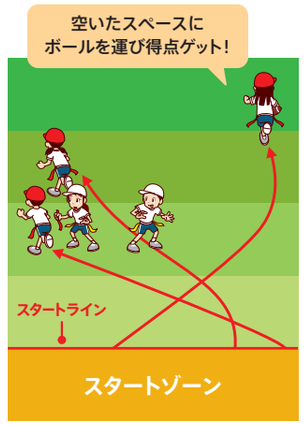
作戦のパターン



スペースを見つけて
投げる作戦



投げると見せかけて
走る作戦



空いたスペースを
走る作戦

中学年での作戦成功のコツ

- まずは成功しやすい短いパスからはじめよう
- ボールをキャッチ出来なくても、触ることが出来たら1点など、子どもたちに合わせてルールをアレンジすること。
- パスとランをバランス良く織り交ぜよう



実際に子どもたちが考えた作戦 － たつまき大作戦 －



- まず❸が、☆のところまで走ったら、❷が❸と同じように走る
- ❷が2週回って〇の位置まできたら、後ろに抜けて❶からのパスをキャッチし、そのまま走る
- ❸は走り続けながら、途中で「ヘイ！」と言うなどして、守備を引き付ける
- ❶は❷に投げる前に、❸に投げるふりをしたりします

※第8回作戦コンクール中学年全国優勝の「宇美町立桜原小学校4年1組」が考案した作戦です。

目標

いままでの動きに加え、「ボールを投げる＆キャッチする」という動作を学ぶこと。またパスも織り交ぜた作戦を子ども同士で話し合い、一人一人の役割を決めること。

約束事

1 回の攻撃の前に、作戦を選ぶ時間をつくること。

声かけの例事

「ハドル（作戦会議）では作戦カードをうまく使おう。」
「一人一人の動きをしっかりと確認しよう。」
「プレーが成功したら、みんなでハイタッチして喜ぼう。」

授業の組み立て方

- 続けてゲームをするのではなく、授業の途中でチームごとに作戦を話し合う時間や、作戦を練習する時間を設けましょう。
- 良い作戦はクラス全体に共有するなど、作戦を考えるヒントを与えてあげましょう。

アレンジルール

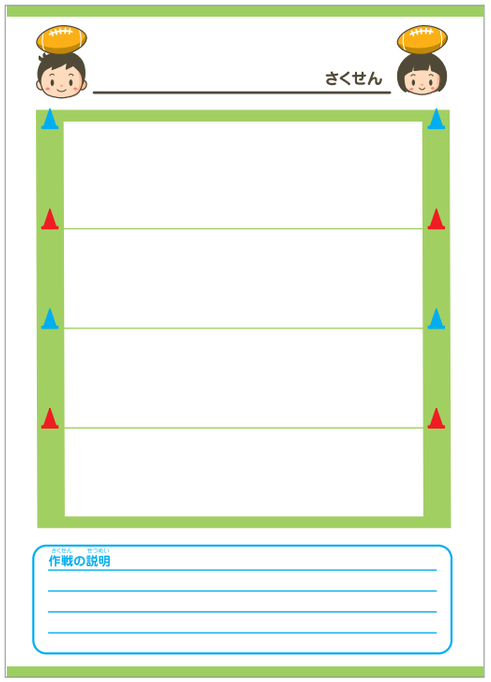
なかなか得点ができないようであれば、守備の人数を少なくしたり、コートの横幅を広くしたりして、相手のいない場所を増やす工夫を行いましょう。



［ すぐに使える便利なツールが勢ぞろい! ］



自分だけのオリジナル作戦を考えよう!



オリジナル作戦を考えよう

ポイント

1. **相手の動き**を**予測**しよう
2. 一人一人の**役割**を決めよう
3. **オリジナルの作戦名**をつけよう!

作戦を考えるヒント

1 どんな動きをすれば守りをだますことができるのかな?

例 ▶ 投げると見せかけてボールをわたす、走ると見せかけて投げる など

2 スタートするときのセット位置はどんな形でも良いんだよ

例 ▶ 左側に3人固まる、縦に3人並ぶ など

みんなの作戦を大募集!
フラッグフットボールさくせんコンクール

体育の授業で「フラッグフットボール」を実施

↓

チームでオリジナル作戦を考える

↓

学校の代表作戦を1つ決める

↓

応募フォームから応募

↓

すばらしい作戦は表彰を行うほか、教材や広報などで紹介される場合があります。



作戦の戦術的な凄さだけではなく、
「チームで考えた過程」「フラッグへの思い」
「一人一人の特徴を活かそうとする姿勢」
「作戦への関心を高めるネーミング」など、
多様な基準で子どもたちの考えた作戦を
ご紹介させていただきますので、
ぜひお送りください。



**詳細はホームページにて
ご確認ください。**

https://www.japanflag.org/

— 第４章 —

［ すぐに使える便利なツールが勢ぞろい! ］



ダウンロード素材・動画を活用しよう!

ダウンロード素材

授業用資料



イラスト



児童用テキスト(漫画)



作戦ノート



学習カード



賞状



「日本フラッグフットボール協会」から
自由にダウンロードが可能です!

https://www.japanflag.org/

動画集

Youtube に多数の動画がアップされておりますので、授業での説明やご自身の授業準備にぜひご活用ください。





テレビ番組もスタート!

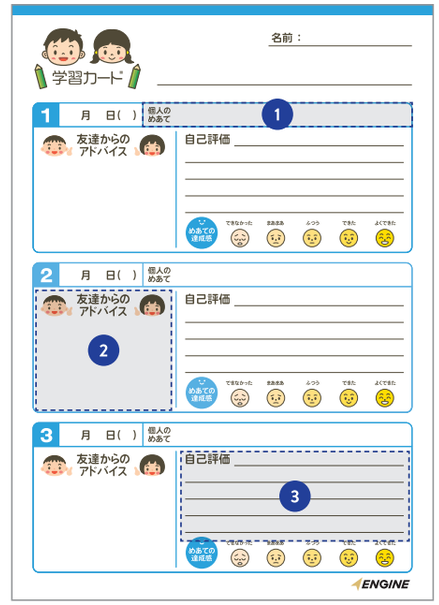
BS よしもとにて、フラッグフットボール番組がスタート。過去の放送や初心者向けの説明動画をいつでも観ることが可能です。



詳しくはこちらを
チェック!

学習カードはこう書く!







1 授業のめあて

▶ 最初のうちは先生が全体にめあてを提示する形でも構いません。

2 友達からのアドバイス

▶ 自分の言葉で書くことが出来れば理想的です。

3 自己評価

▶ 授業の感想ではなく、めあてに対して出来たこと・出来なかったことを子どもたち自身で考えることが重要です。

● 評価のポイントはP19の「ボール運動(ゴール型ゲーム)で身に付けたいこと(中学年)」をご参照ください。

「指導内容を明確化する」ことが大切

子どもたちにただ授業の感想を書かせても、「楽しかった」や「勝ててうれしかった」という回答が多く返ってくることが予想されます。子どもたちに身に付けさせたいことは何か、指導内容を明確にすることが大切です。先生が課題を提示し、その課題に対する振り返りを記載してもらう必要があります。そうすることで学習カードを通じ、「身に付けたいことが、ちゃんと身に付いているか」を把握することができ、正しい評価にもつながります。

Q&A

Q　この本や掲載されているイラストをコピーして使用してもいいですか？

A　学校現場におきましては、ぜひご自由にご活用ください。

Q　用具はどこで買うことができますか？

A　体育用品カタログからご購入頂けます。 molten MIKASA

Q　用具をレンタルすることはできますか？

A　できます。詳細は協会のホームページをご確認ください。

Q　楕円ではなく、丸いボールでもできますか？

A　できます。ハンドボールの 1 号球を推奨しています。

Q　チーム分けや係決めのポイントはありますか？

A　フラッグフットボールはチームで作戦を作って戦うスポーツのため、チーム名を決めたり、係を決めたり、掛け声を決めたりすることで、チームの所属意識を高めるようにしましょう。また、運動の得意な子が偏らないようにすることも大切です。

Q　3 対 2 がベースになっていますが、なぜ人数が 3 人と少なく、また攻撃側の人数が多いのですか？

A　ゲームに参加する人数を少なくすれば、ゲームでの 1 人 1 人の役割の重要度が増します。また、攻撃側の人数を 1 人多くすることで、パス・ラン共に作戦の成功率が高くなりますので、子どもたちが作戦の成功を通して、集団的達成の喜びを味わいやすくなります。

Q　4 対 3 など人数を変更するときの注意点はありますか？

A　人数が増える場合は、1 人につき 5 メートル程度の横幅を保つことを推奨します。作戦の幅が一気に増えますので、馴れてきたら 4 人にも挑戦しましょう。

おわりに

さぁ、はじめよう。新しい体育を!

この度はフラッグフットボール「スタートブック」をお読み頂き誠に有難うございました。拙い内容もあると存じますが、本書が皆様の教育活動にお役立てれば大変嬉しく存じます。本書にてご確認頂きました通り、これまで殆ど無名であった種目「フラッグフットボール」が学習指導要領の本編に掲載されました。この理由は様々な研究もさることながら、「これからの時代にあるべき成長」がこのゲームに込められているからに他なりません。

次世代を生きる子どもたちを取り巻く環境は大きく変わってきています。成熟社会を迎え、情報に溢れ、わからないことは何でも指先一つでいつでも調べられる時代になりました。このような時代においてこれから重要なことは「課題も、その解決策も、自ら主体的に創り出すことができる力」であると考えています。

フラッグフットボールの「作戦づくり」は様々な試行錯誤から「みんなでアイディアを出して解決していく」ことを楽しんで教えてくれるゲームになっています。そして、もう一つフラッグフットボールに込められた最大の理念が「個の尊重と共生」です。子どもたち一人一人はみんな違います。全く同じ容姿、全く同じ思考、全く同じ運動能力、全く同じ個性の子たちは誰一人いません。その「違いを力に変えていく」ために、子どもたち一人一人のできることやアイディアという「個性を尊重し合い」ながら、同時に「共に生きる」チームとしての成長も教えてくれる特別な教材なのです。

フラッグフットボールが日本の教育現場に誕生して 20 年以上の年月が経過しました。だんだんと形を変え、様々な関係者の皆様の尽力のより、現在は本書の通り「小学校体育の新教材」として取り上げられるまでになりました。フラッグフットボールが皆様の学校現場において、そして子どもたちにとって「新しい可能性の発見」に貢献できればこの上なく幸いです。「さぁ、はじめよう。新しい体育を。」是非、末永く楽しんでください。

公益財団法人 日本フラッグフットボール協会